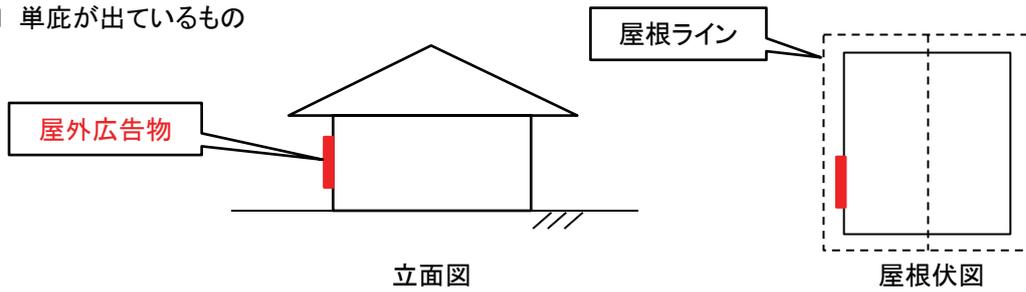
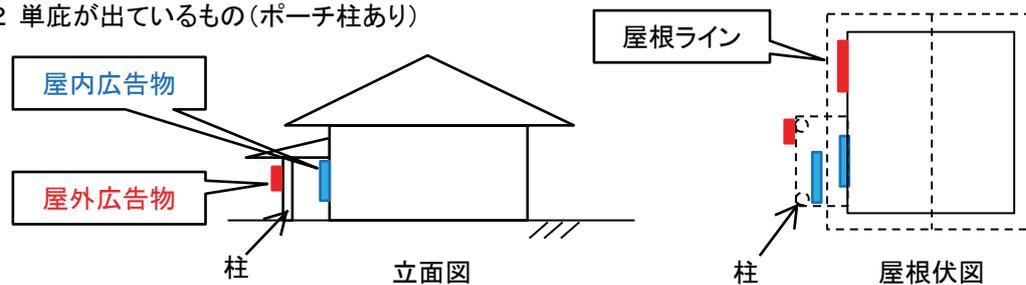


庇等の下の広告物について

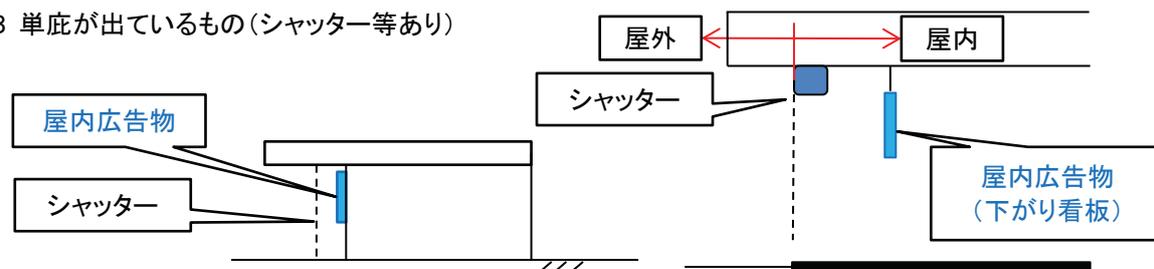
①-1 単庇が出ているもの



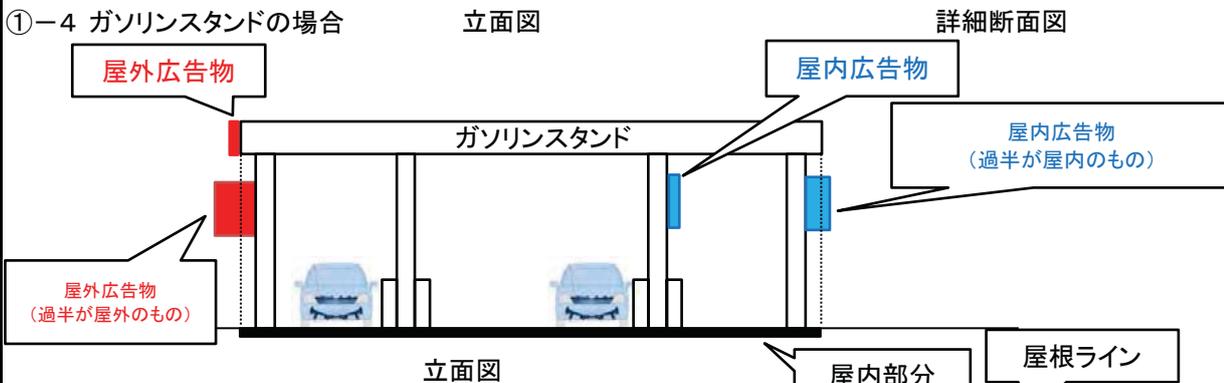
①-2 単庇が出ているもの(ポーチ柱あり)



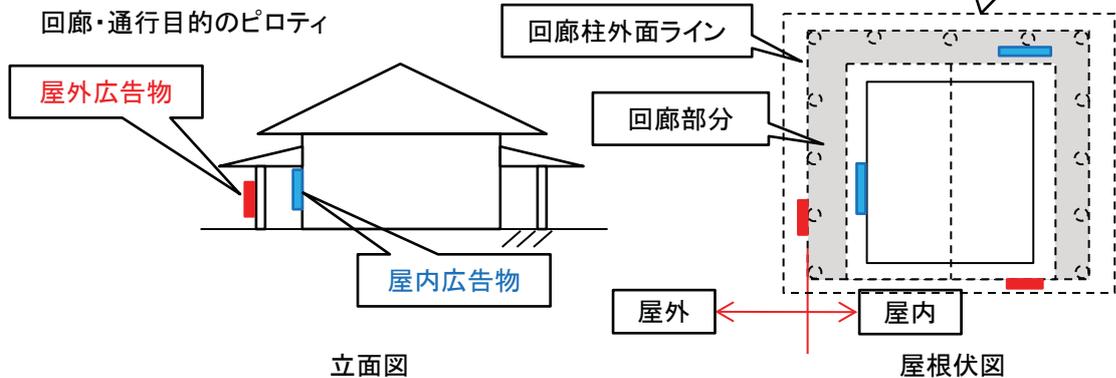
①-3 単庇が出ているもの(シャッター等あり)

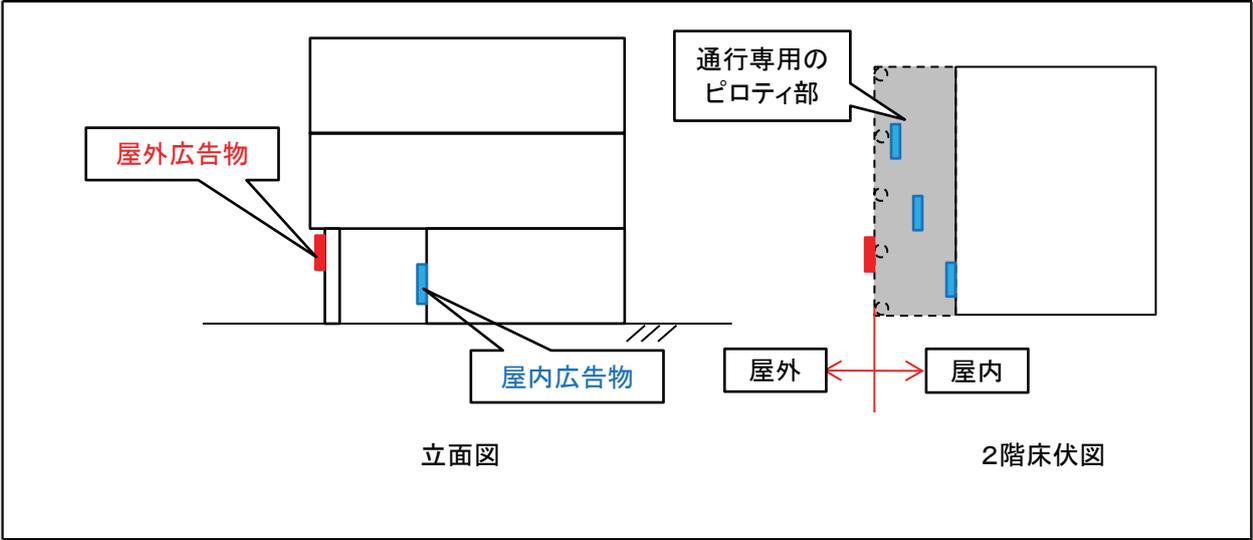


①-4 ガソリンスタンドの場合



② 回廊・通行目的のピロティ

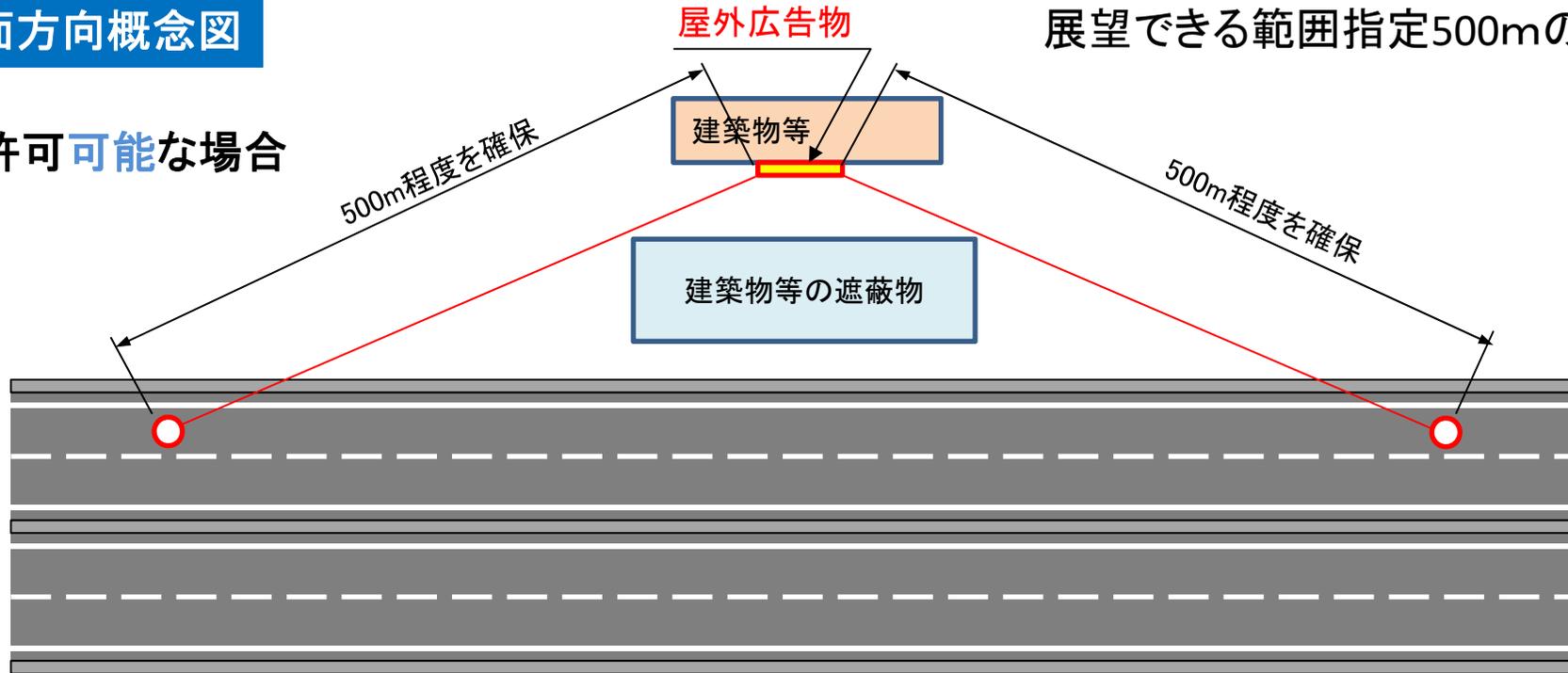




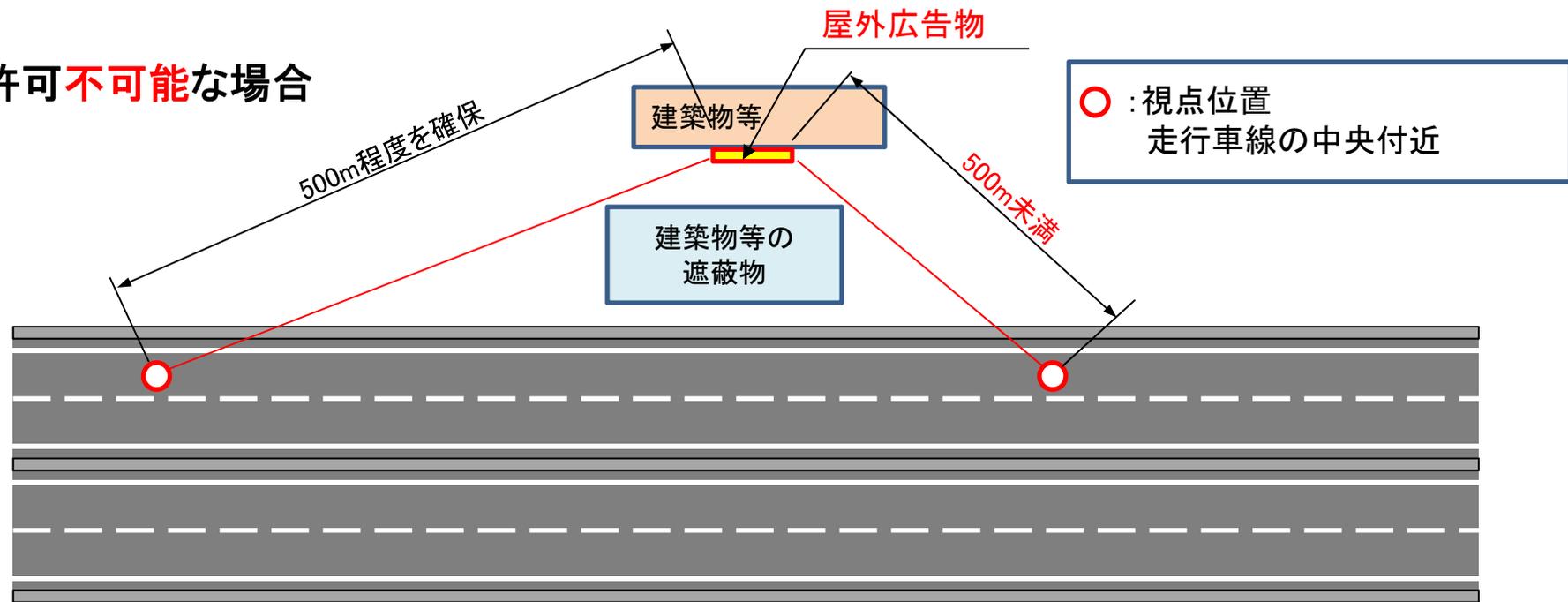
平面方向概念図

展望できる範囲指定500mの場合

許可可能な場合

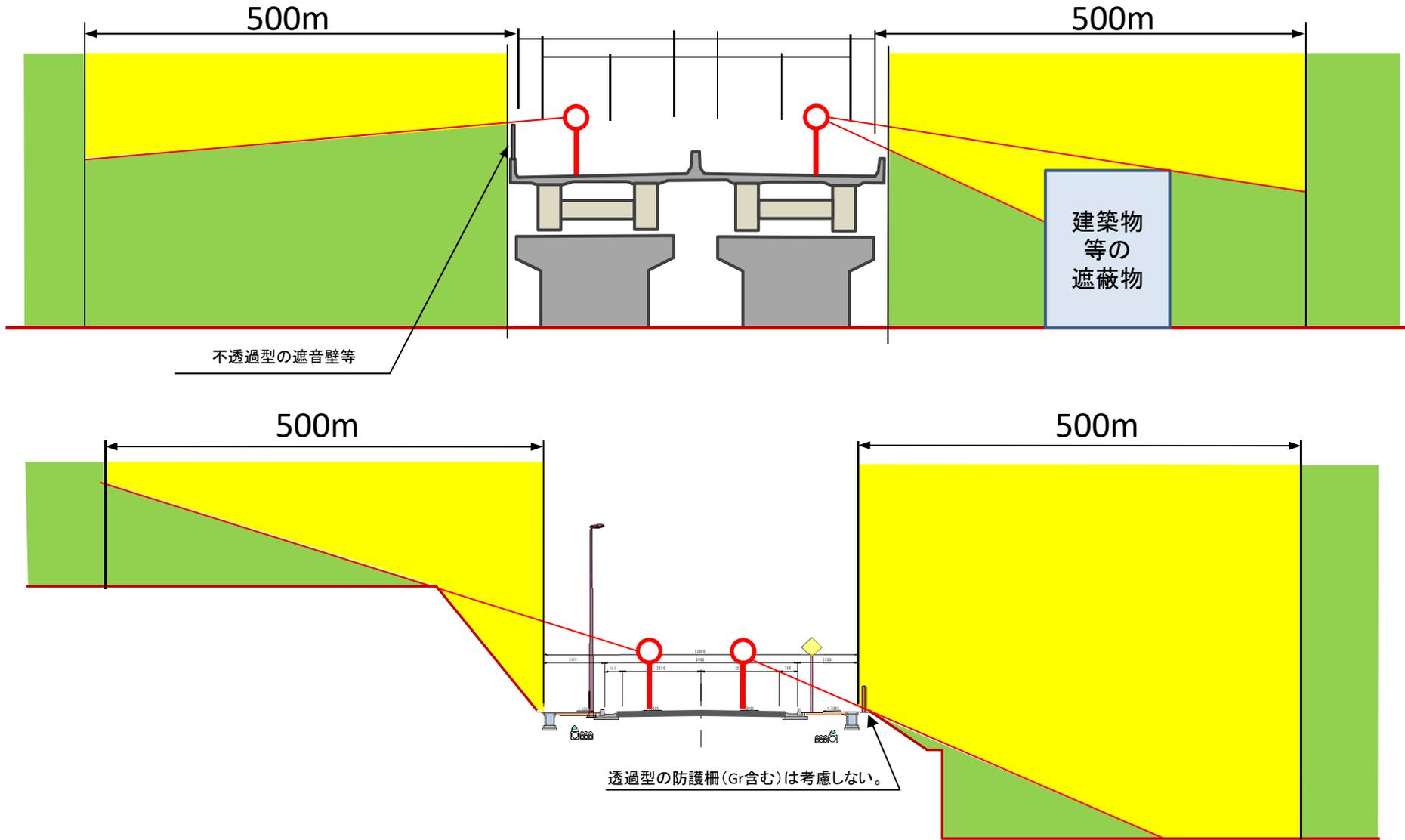


許可不可能な場合



横断方向概念図

展望できる範囲指定500mの場合



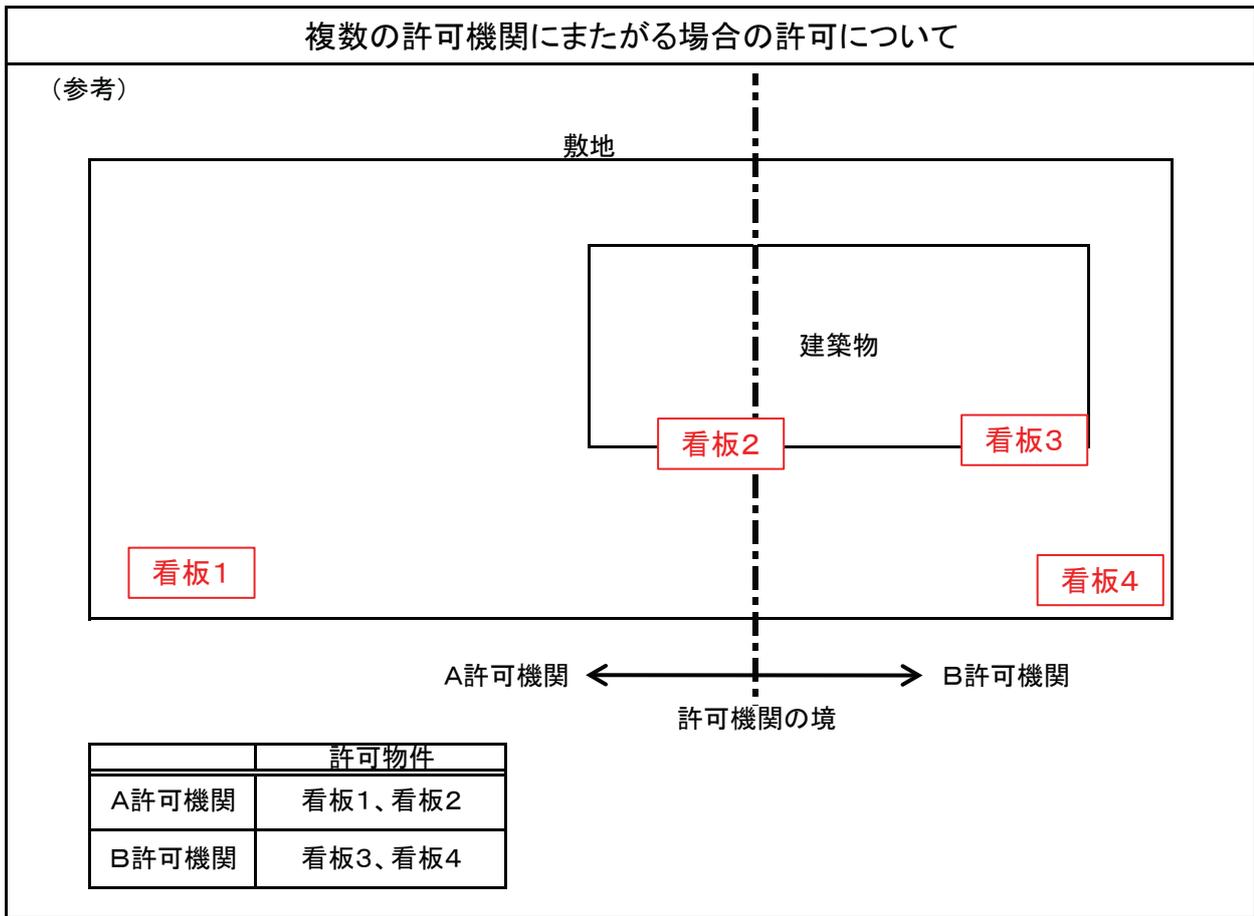
視点位置 位置：走行車線の中央付近
高さ：1.2m程度



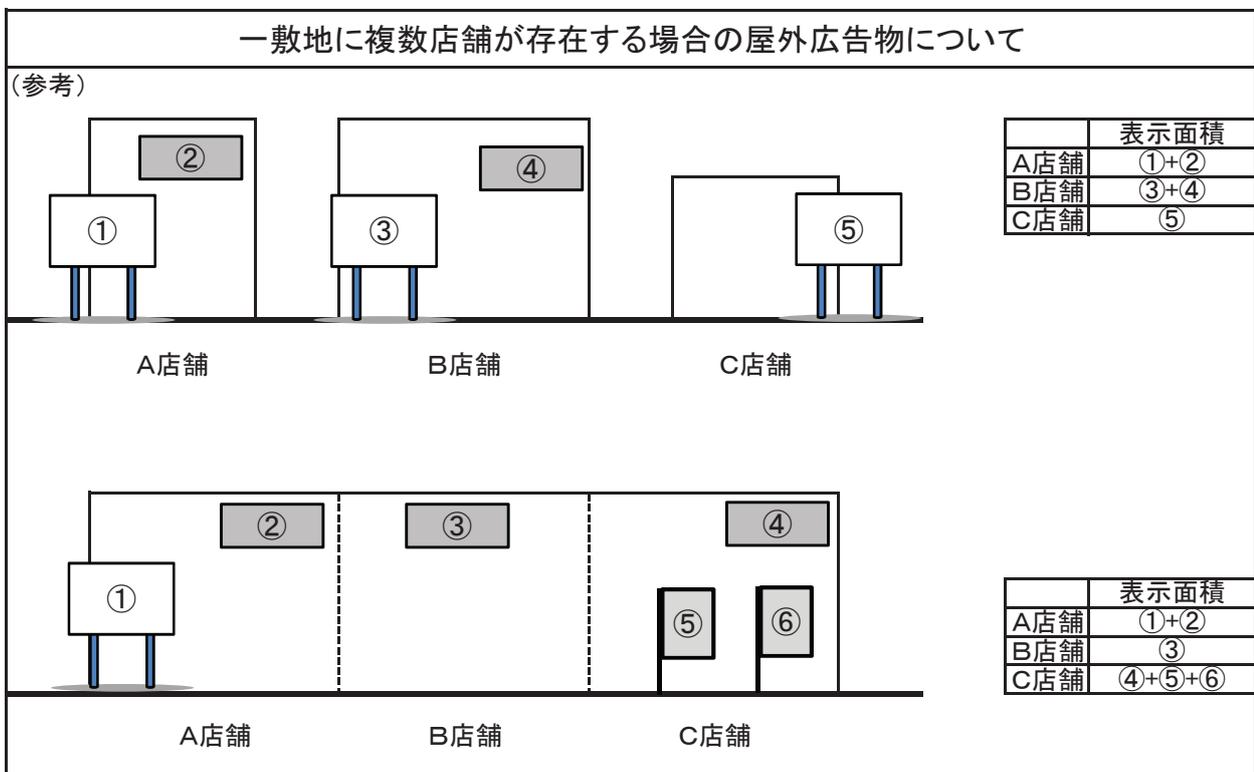
：展望できる範囲

：従前の規制地域基準(展望できない範囲)

【解説図】複数の許可機関にまたがる場合の許可について



【解説図】一敷地に複数店舗が存在する場合の屋外広告物について



広告板の表示面積について

パターン①
表示部分ではなく板全体

パターン②
表示部分ではなく板全体

パターン③
表示している板全体
外周はフレーム(表示板とは別の材質)

パターン④
表示している板全体

パターン⑤
板全体

パターン⑥
基本は広告の板面のみ
周りの装飾が広告物の一体となっている場合は、個別に判断

パターン⑦
フレームがあってその上からパネルがついている
パネル部を表示板として算定

パターン⑧
広告板の総面積

パターン⑨
円板面積と四角板面積の合計

円板面積の算出が難しい場合には
円を囲う最小の四角形の面積で算出してもよい
 $L \times H = A \text{ m}^2$ が円板面積となる

パターン⑩
フレームに切り文字が設置している場合

文字単体を囲む四角形もしくは
文字の並び全体の四角形で面積を算出
(文字自体の面積が分かる資料が提出される場合は
その面積で算出してもよい、下図だと青色の箇所のみ)

道標について

＜許可地域内における建植する道標や禁止地域内における道標の表示について＞

誘導を目的とした表示面積が誘導目的以外の表示面積より大きいこと。

(誘導目的の表示内容)

- ① 店舗・事業所名(企業ロゴを含む)
- ② 方向・矢印
- ③ 目的地までの距離
- ④ 案内図
- ⑤ 文言による誘導

上記のうち①の他に誘導に必要な②～⑤のうち最低1項目は表示しなければならないこととする。

⑤については以下の様な内容が想定される。

- ・「〇〇交差点を右折」等、文言による誘導
 - ・複合施設(ビル)内の店舗・事業所等にあつては、その複合施設(ビル)の名称と階数、等
- ただし、①と複合施設(ビル)の名称だけでは営業広告と差がないため、このほか誘導に必要な内容を表示しなければならない。

(誘導目的以外の表示内容例)

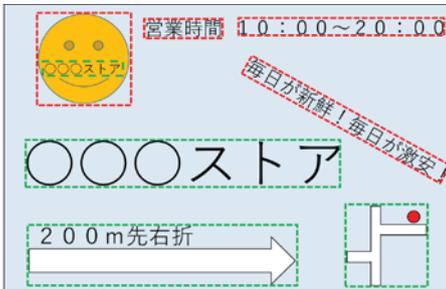
- ① 住所
- ② 電話番号
- ③ URL
- ④ 業種名・内容(診療科目等)
- ⑤ 営業日・時間
- ⑥ キャッチフレーズ
- ⑦ イメージ写真・絵画 等

○表示面積の計測方法は、以下のとおりとする。

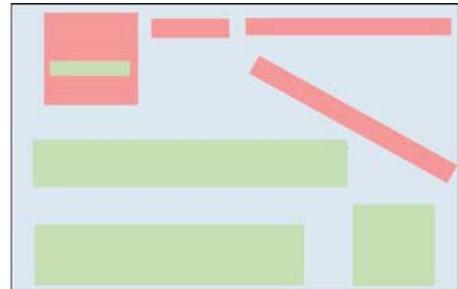
- ・案内表示そのものの面積を計測する。それぞれの表示を囲み(一文字ごとには囲わない)、空白を最小とする長方形の面積を計測する。なお、長方形が重なる場合は一つの長方形にまとめても良い。
- ・誘導目的の案内表示と誘導目的以外の案内表示が重なる場合は、重なった部分を差し引いて計算する。

＜イメージ＞

(1)



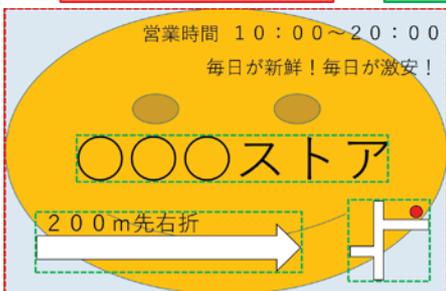
(1)の面積比較



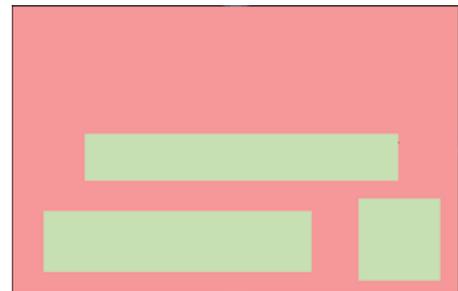
(1): 適合となる場合 **誘導目的以外の表示面積** < **誘導目的の表示面積**

面積の比較は赤の部分と緑の部分と比較する

(2)



(2)の面積比較



(2): 不適合となる場合 **誘導目的以外の表示面積** > **誘導目的の表示面積**

面積の比較は赤の部分と緑の部分と比較する

※1背景に絵や写真を使用しているものについては、背景も表示面積として取り扱う。

※2いずれの場合も、申請時には表示の面積とともに、算定方法の分かる図面を添付する。

誘導目的以外の表示面積

<

誘導目的の表示面積

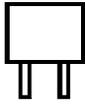
- 住所、電話番号、業種名、営業日・時間、URL、キャッチフレーズ、写真・映画等、誘導目的以外の表示内容
- 誘導目的の表示面積は誘導目的以外の表示面積より大きいこと
- 誘導目的の表示内容は、店舗・事業所名、方向、案内図、距離等で、営業内容を含まないもの
- 店舗・事業所名及び誘導に必要な方向、案内図等を必ず表示すること

【解説図】自己の管理する土地・物件に管理上必要な広告物

自己の管理する土地・物件に管理上必要な広告物について

(参考)

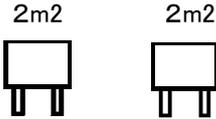
①基準を満たす管理用広告物の場合



表示面積3m²以下

管理用広告物としての基準を満たしているため、適用除外とする。
(例: 適用除外とする)

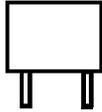
②基準を満たす管理用広告物が複数設置されており、合計面積が3m²を超える場合



合計表示面積が3m²を超える

複数設置される看板すべてが管理用広告物としての基準を満たしているため、合計面積の内3m²は適用除外とし、超過分は自家用広告物として計算する。
(例: 合計面積4m² - 3m² = 1m²を自家用広告物とする)

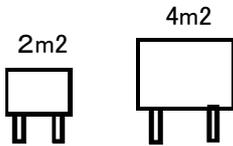
③表示内容や高さ等は管理用広告物の基準を満たすが、表示面積が3m²を超える場合



表示面積4m²

表示面積が3m²より大きく管理用広告物の基準を満たしていないため、管理用広告物として扱わない。
よって、全ての面積を自家用広告物として計算する。
(例: 4m²を自家用広告物とする)

④管理用広告物の基準を満たす広告物と満たさない広告物が混在する場合



管理用広告物の基準を満たす広告物のみ適用除外とし、管理用広告物としての基準を満たさない広告物は自家用広告物等として計算する。
(例: 2m²を適用除外、4m²を自家用広告物とする)

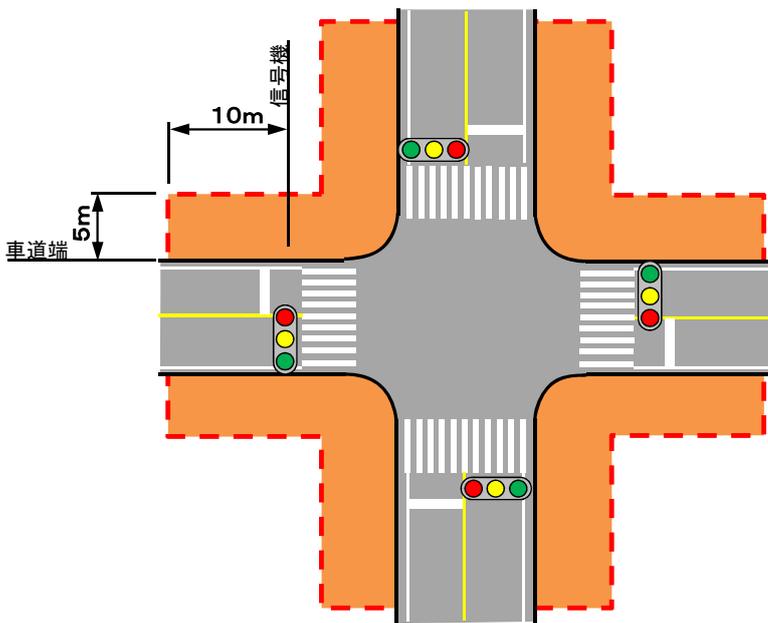
※①～④の考え方は第二種禁止地域、第一種～第三種許可地域の場合を想定

表示の内容が変化する広告物(LED等)で「知事が認める方法」の許可基準について

高さ規制対象範囲 交差点の場合 例

<高さ規制対象範囲>

- 車道端から外側5mの範囲
歩道がある場合でも車道端から5mとする。
- 交差点の場合、信号機の手前10mから交差点内の範囲
- 予告信号など交差点以外に単独で設置されている場合、信号機の前後10mの範囲



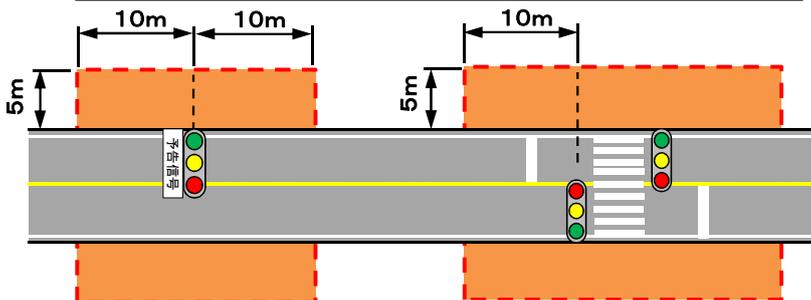
<方向別の高さ規制>

- 車両用信号機と概ね同方向に設置しようとする場合
信号機の端から上下2mの範囲は設置不可とする。
- 歩行者用信号機と概ね同方向に設置しようとする場合
信号機の端から上下左右2mの範囲内は設置不可とする。

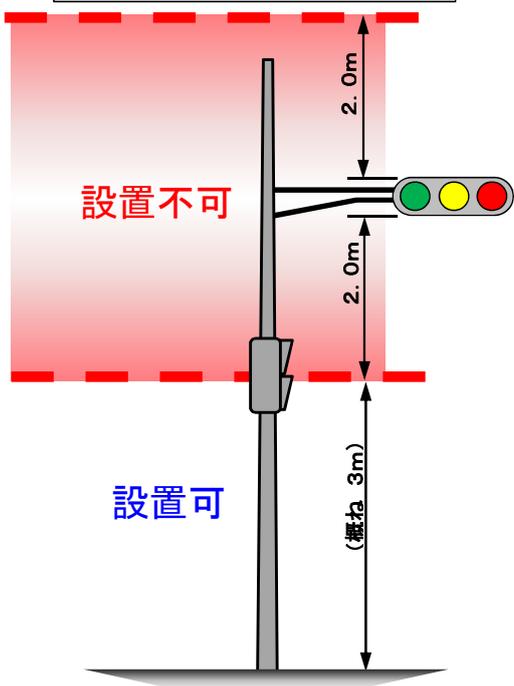
<その他(規制対象範囲内において)>

- 信号機と類似するような形状・表示は認めない。

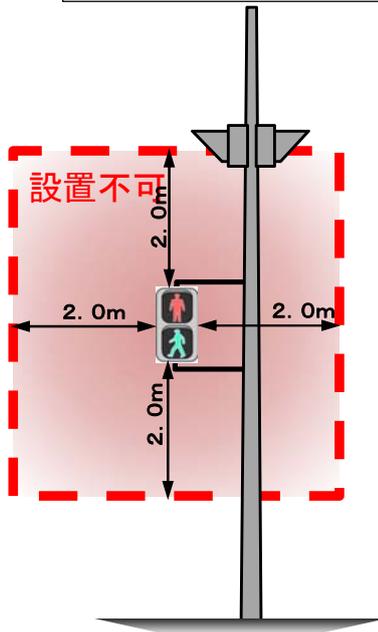
高さ規制対象範囲 予告信号・押しボタン式信号の場合 例



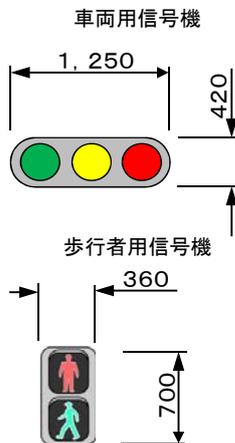
車両用信号機と概ね同方向に設置しようとする場合の高さ規制



歩行者用信号機と概ね同方向に設置しようとする場合の高さ規制



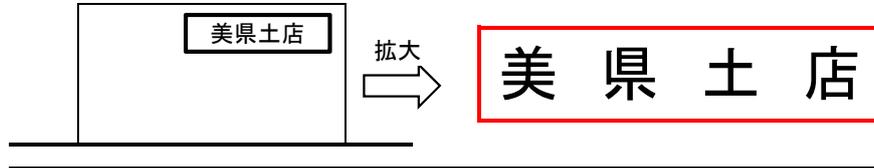
信号機の外形寸法(mm)



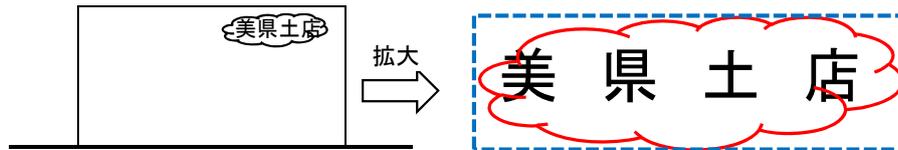
壁面を利用する広告物の表示面積について

:表示面積部分 :赤枠でなく、青枠で表示面積をとってもよいものとする。

○広告板を取り付ける場合



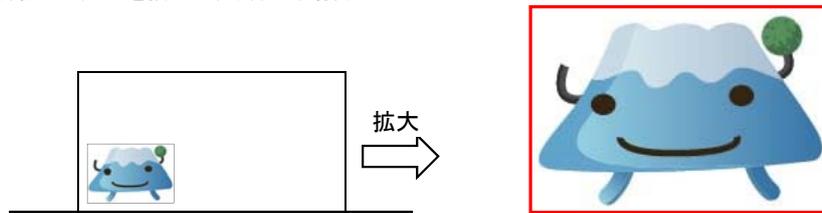
○文字が装飾されている場合



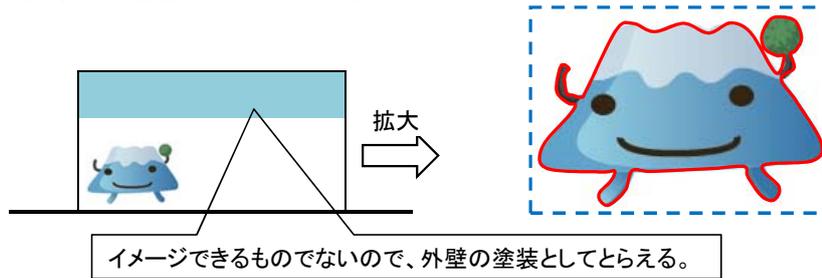
○切り文字看板の場合



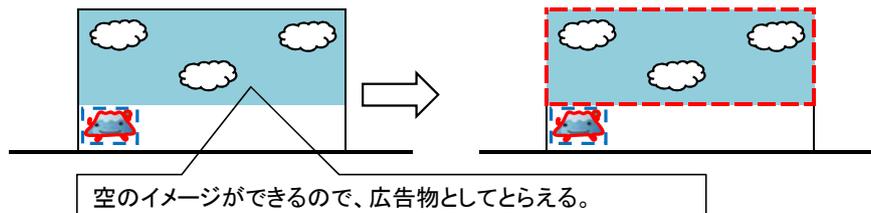
○広告板にイラストを描いて取り付ける場合



○絵等を塗装により壁面に直接掲出する場合

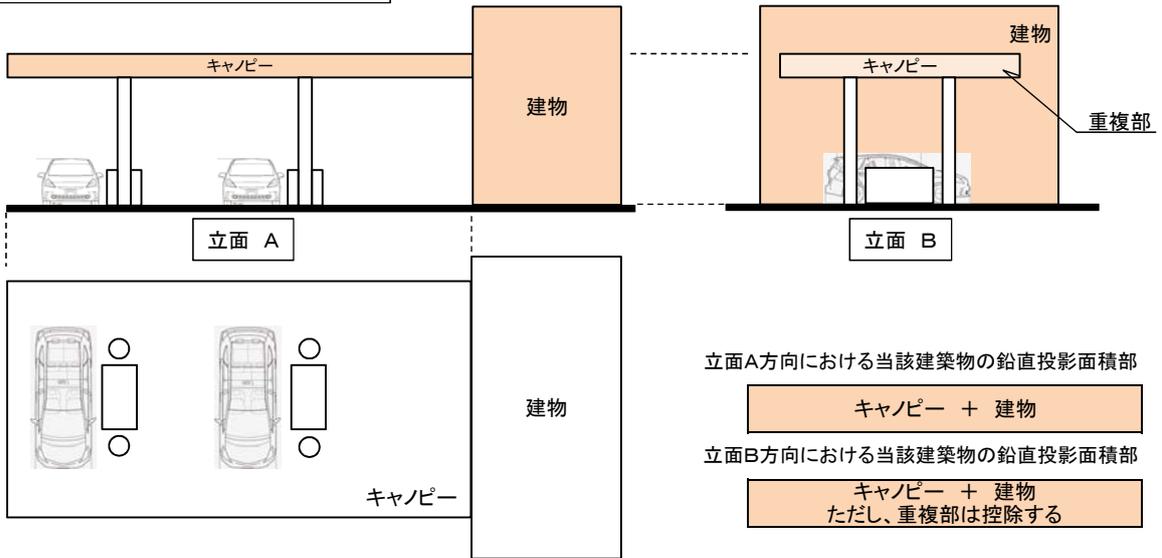


○イメージできるものを壁面に掲出した場合

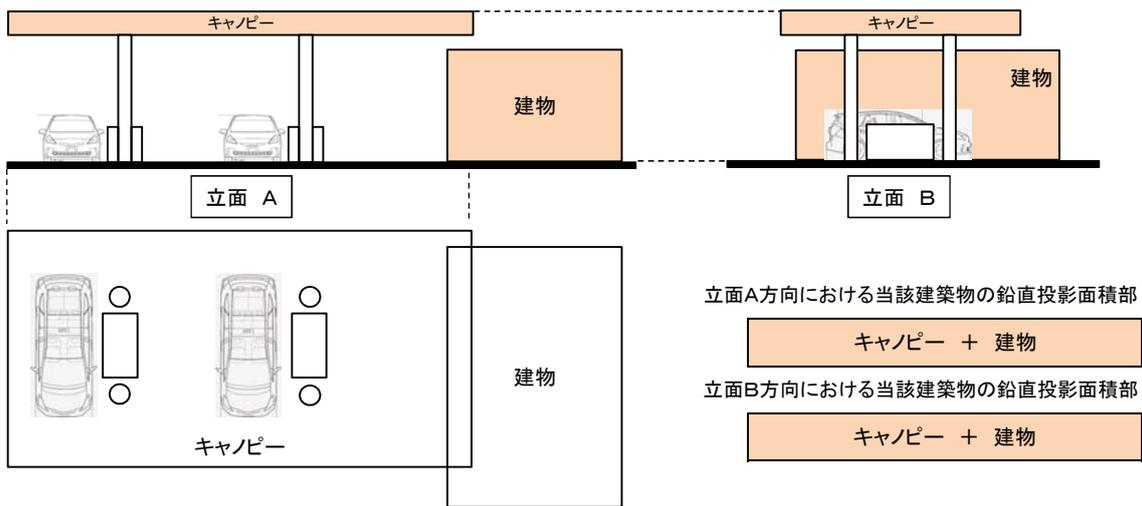


キャンピアーを有する建築物の鉛直投影面積について

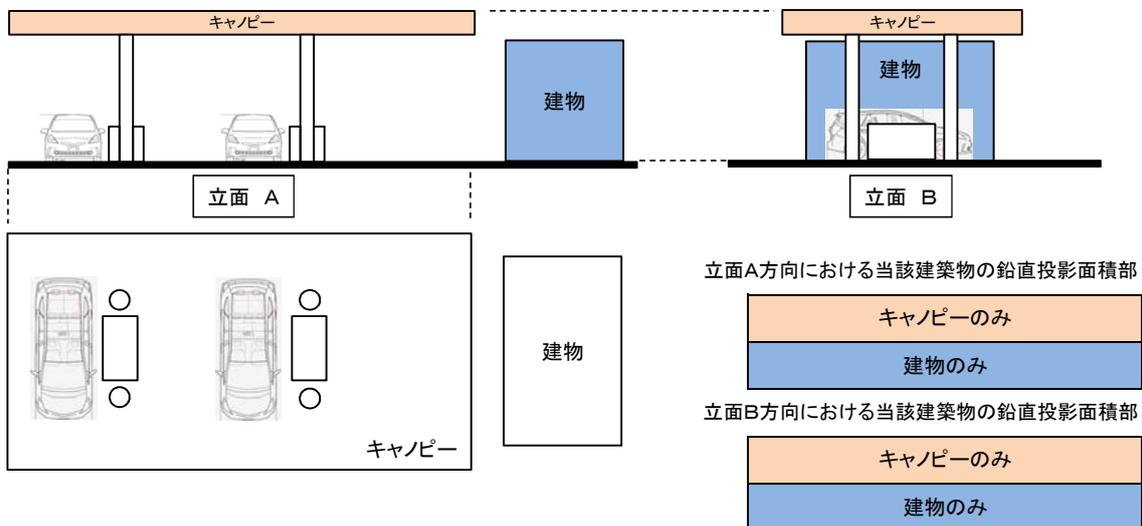
キャンピアーと建物が一体となっている場合



キャンピアーと建物が重なっている場合

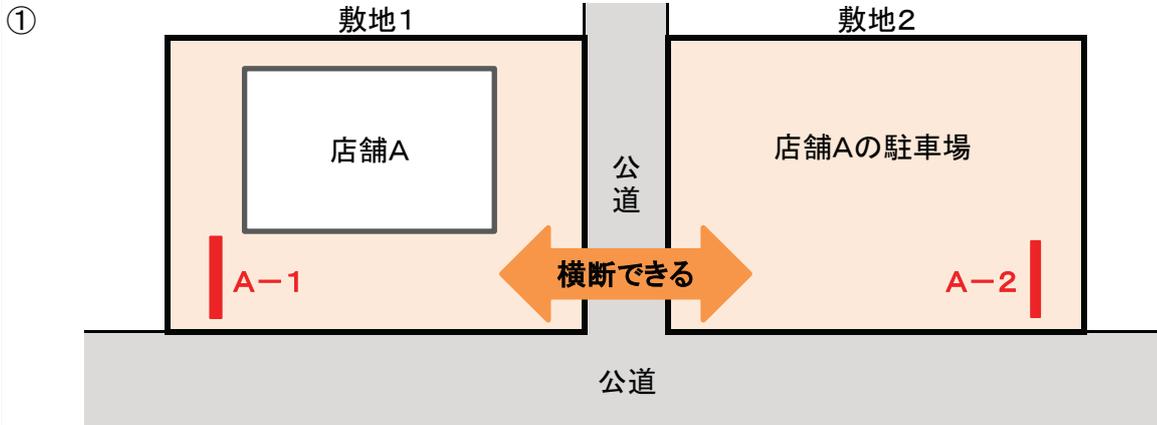


キャンピアーと建物が離れている場合



事業場の敷地について

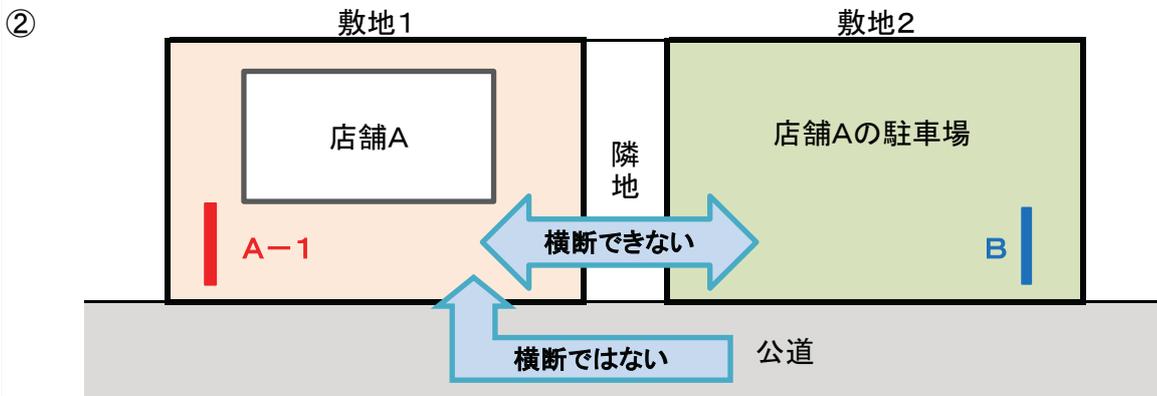
下記のケースで【横断できる】とは公道等を歩いて横断できる場合を示しており、中央分離帯などにより横断できない場合は同一の事業場の敷地としては扱わない。
 なお、大規模集客施設等の特殊な場合については、これまでの経緯等を含め個別に判断する。



事業場の敷地の考え方

公道の横断で敷地1と敷地2に行き来ができる状況にあれば、同一事業場の敷地となる。

店舗Aの自家用広告物は、A-1・A-2となる



事業場の敷地の考え方

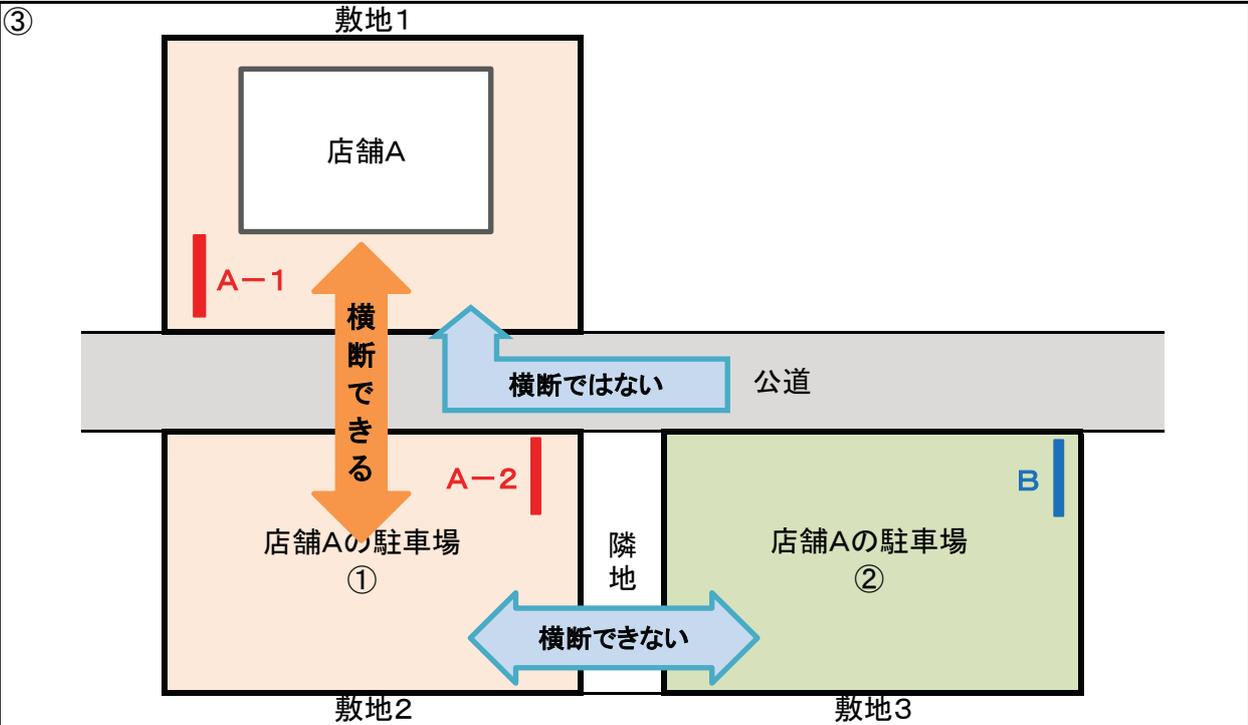
・隣地により敷地1と敷地2が分かれてしまっている場合は、実質行き来ができたとしても、別事業場の敷地となる。

・公道を横断以外の方法で行き来ができて同様に、別事業場の敷地となる。

・隣地を借地して、敷地1と敷地2を一体利用するのであれば、同一事業場の敷地となる。

上記ポンチ絵の場合、店舗Aの自家用広告物はA-1 である。

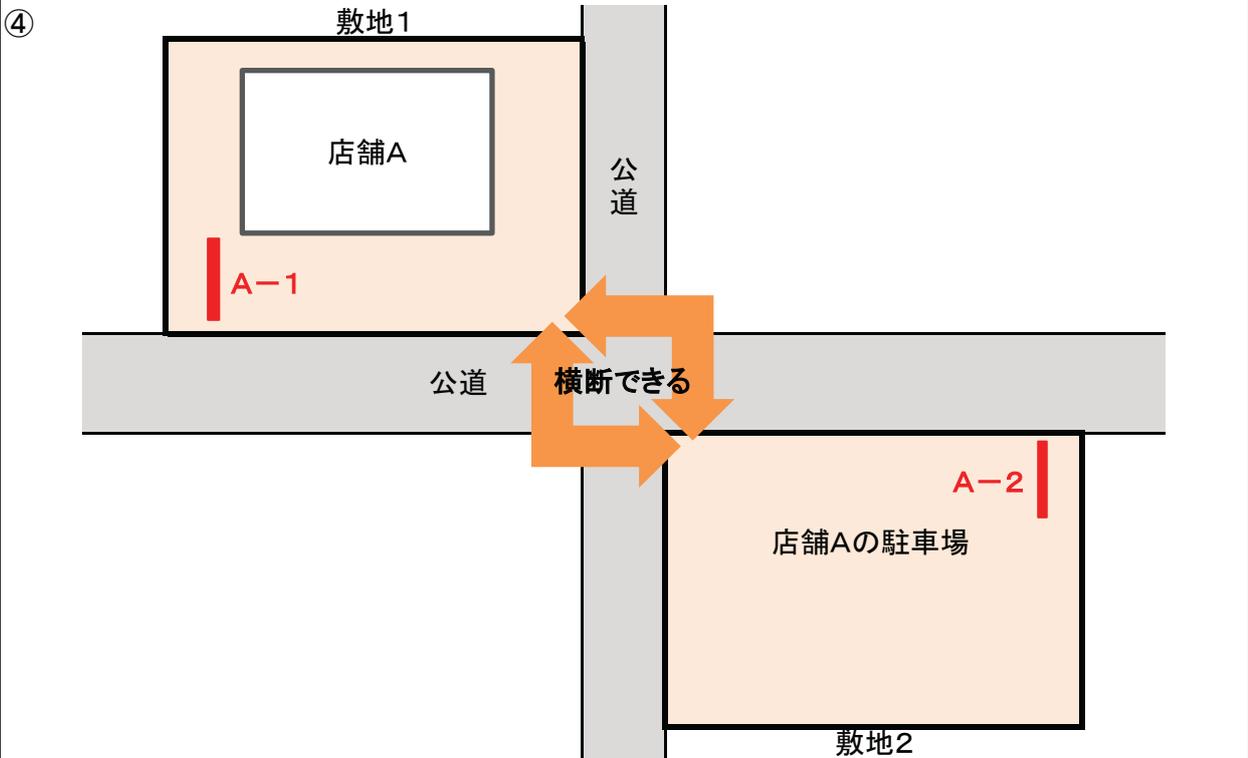
Bの広告物は駐車場としては自家用広告物となるが、店舗Aとしての自家用広告物とはならない。



事業場の敷地の考え方

- ・敷地1と敷地2は同一事業場の敷地
- ・敷地3と敷地1及び2とは別の事業場の敷地

敷地1と敷地3は敷地境界線同士が重複しておらず道路を横断するだけでなく縦断的に使用しなければ行き来できないため、同一の事業場の敷地としては扱わない。
敷地2と敷地3を分断しているのが公道だった場合は、3つの敷地を一体利用できることから敷地3も同一の事業場の敷地となる。



事業場の敷地の考え方

- ・交差点の角にある場合は、公道の横断で敷地1と敷地2に行き来ができる状況にあれば、同一事業場となる。

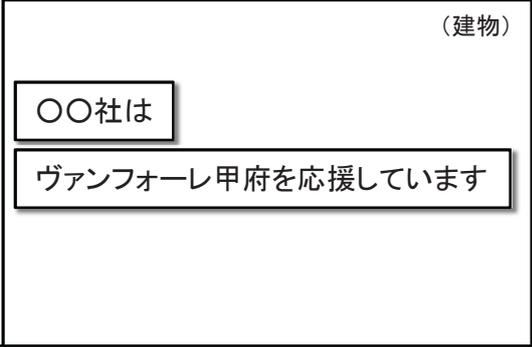
【解説図】外壁及び塀又は垣を利用する広告物等(自家用広告物以外)に係る個数について

外壁及び塀又は垣を利用する広告物等(自家用広告物以外)に係る個数について

① 広告板で表示されるもの

広告板の個数で判断するものとする。
表示内容が一体的である場合であっても個数で判断する。

右図は建築物の外壁を利用する広告物等
広告物等の個数：2個

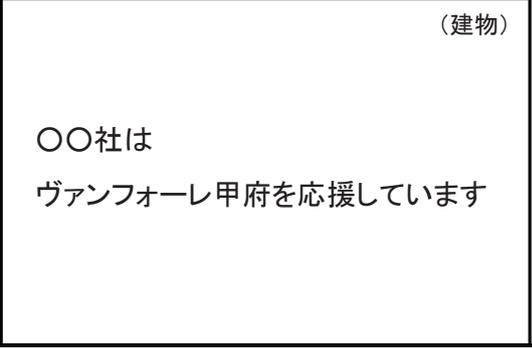


② 切り文字や塗装等で表示されるもの

文字、その他の表示(キャラクター等の図画)等が複数に離れている場合は、その連続性・一体性等を総合的に判断する。

右図は建築物の外壁を利用する広告物等
広告物等の個数：1個
理由：表示内容が文章として成り立っており、一体的と判断できる。

この場合の表示面積は取扱い基準「壁面を利用する広告物の表示面積について」のとおりとする。

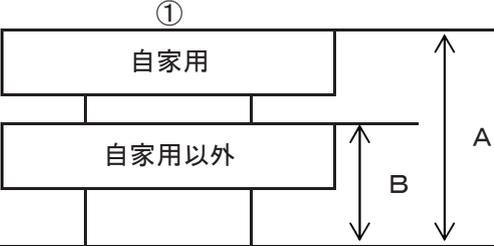


【解説図】建植する広告物において異なる基準の広告物が設置される場合の取扱いについて

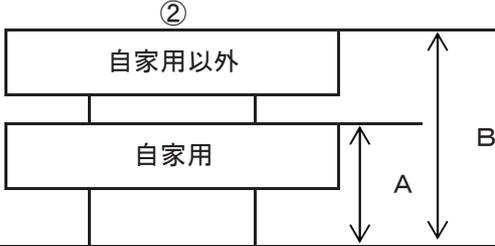
建植する広告物において異なる基準の広告物が設置される場合の取り扱いについて

1 自家用広告物と自家用広告物以外の組合せの場合

①



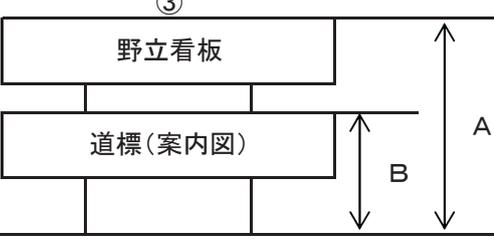
②



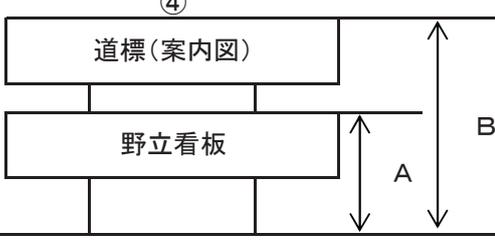
※自家用広告物は「A」にて高さ規制を行い、自家用広告物以外は「B」にて高さ規制を行う。
また、面積の規制等もそれぞれの基準で行う。

2 自家用広告物以外の組合せの場合

③



④



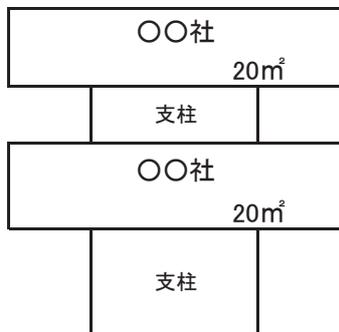
※野立看板は「A」にて高さ規制を行い、道標(案内図)は「B」にて高さ規制を行う。
また、面積の規制等もそれぞれの基準で行う。

【解説図】建植する広告物等に係る表示面積の取扱いについて

建植する広告物等に係る表示面積の取り扱いについて

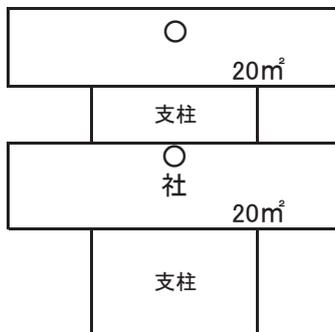
単体の場合の例(第2種許可地域を例に)

①

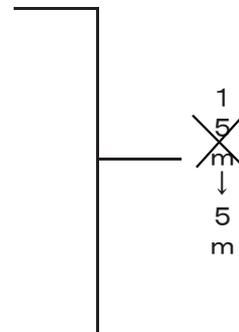


※一方向から見た場合の表示面積の合計は40m²。よって、25m²を超えるため、高さは、5m以下とする。

②



※一方向から見た場合の表示面積の合計は40m²。よって、25m²を超えるため、高さは、5m以下とする。



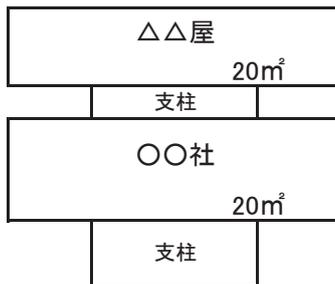
③



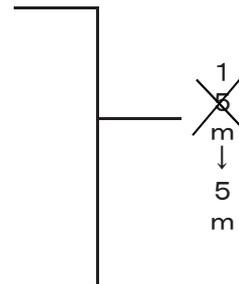
注) 広告板に物理的な空間ない場合の例

※2事業者が表示されているが、一方向から見た場合の表示面積の合計は40m²。よって、25m²を超えるため、高さは、5m以下とする。

④



※2事業者が表示されているが、一方向から見た場合の表示面積の合計は40m²。よって、25m²を超えるため、高さは、5m以下とする。

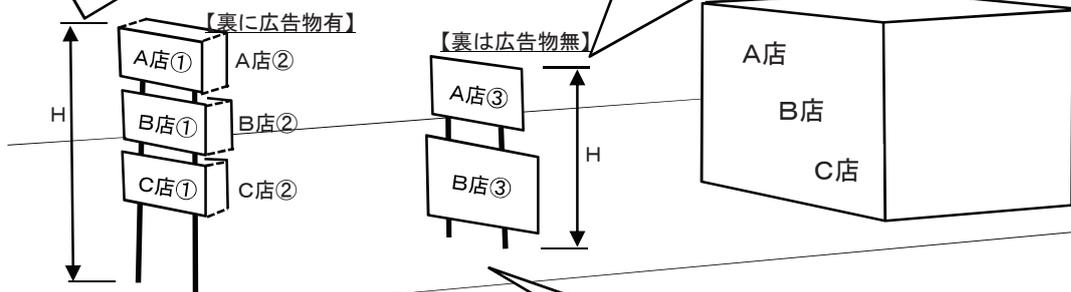


複数店舗の場合の例(第2種許可地域を例に)

※下記の条件に合致しなければ許可できない。

- ◆1方向の表示面積の合計
 $(A①+B①+C①)=0\sim 25m^2$
 $\Rightarrow H\leq 15m$
- ◆1方向の表示面積の合計
 $(A①+B①+C①)=25\sim 50m^2$
 $\Rightarrow H\leq 5m$

- ◆1方向の表示面積の合計
 $(A③+B③)=0\sim 25m^2$
 $\Rightarrow H\leq 15m$
- ◆1方向の表示面積の合計
 $(A③+B③)=25\sim 50m^2$
 $\Rightarrow H\leq 5m$



- ◆一本の建植における表示面積の合計
 $\cdot A①+B①+C①+A②+B②+C②\leq 50m^2$

- ◆一本の建植における表示面積の合計
 $(A③+B③)\leq 50m^2$

全体として

- ◆自己の管理する事業場の敷地内における建植広告物の表示面積の合計は、
 - $A①+A②+A③\leq 50m^2$
 - $B①+B②+B③\leq 50m^2$
 - $C①+C②\leq 50m^2$